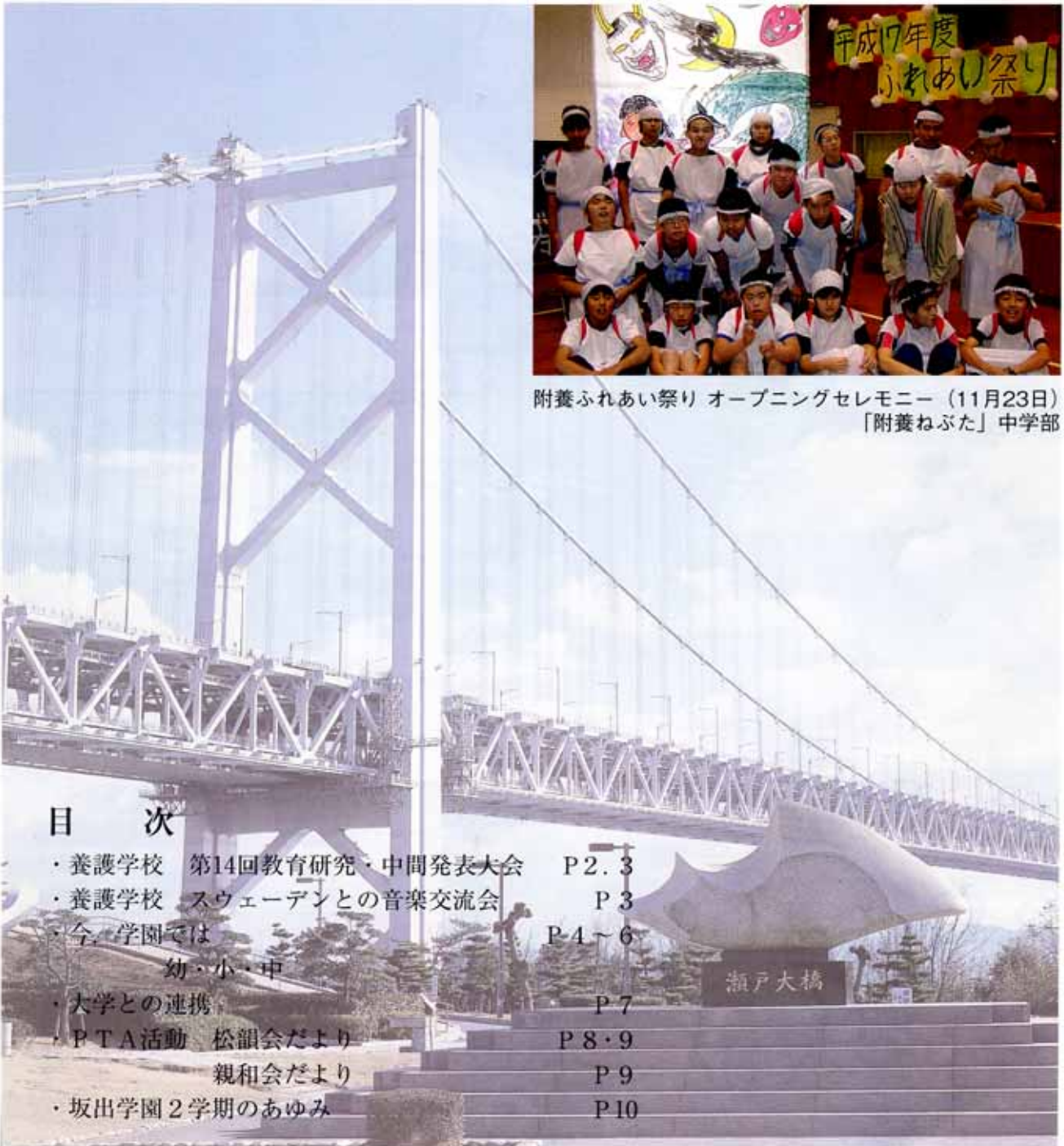


香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第22号

2005.12



附養ふれあい祭り オープニングセレモニー (11月23日)
「附養ねぶた」 中学部

目次

- ・養護学校 第14回教育研究・中間発表大会 P2・3
- ・養護学校 スウェーデンとの音楽交流会 P3
- ・今、学園では P4～6
幼・小・中
- ・大学との連携 P7
- ・PTA活動 松韻会だより P8・9
親和会だより
- ・坂出学園2学期のあゆみ P10

第14回

教育研究中間発表会並びに特別講演会を開催

今年の8月5日に香川県社会福祉総合センターにおいて「第14回教育研究中間発表会並びに特別講演会」を開催したところ、県内外から総勢300名あまりの参加を得、盛会裏に終えることができました。中間発表会では、本校の研究内容や日常使っている教材を展示して本校の取り組みを紹介させていただきました。また、基調講演では横浜国立大学の渡部匡隆先生に、本校のサブテーマ「WANTSの視点」についてお話していただきました。そして、宇都宮大学の梅永雄二先生からは、現在、教育界における最大の関心事である特別支援教育についての特別講演をしていただきました。今回は、そのときの様子を報告いたします。

本校よりの提案

研究テーマ「暮らしを支える共働支援をめざして-WANTSの視点 NEEDSの視点-」をもとに、全体提案、各学部の提案発表を行いました。

(アンケートより)

WANTSとNEEDSの視点からさまざまな支援が行われていることがよく分かった。具体的事例が参考になった。



教材展示コーナー

授業で実際に使用している教材を学部ごとに展示しました。参観者の関心は高く、積極的に質問をされていました。

(アンケートより)

- 補助具や作業を構造化したスケジュール表などすぐに学校でも使えるものでよかった。
- レシピブックなどの手順がとても分かりやすく参考になった。また、仕事の説明などをパソコン操作で見ることができることに驚いた。楽しく将来のことを考えられると思う。



高等部作業製品販売

当日は、高等部窯業班の湯飲みや家政班のからし漬け、たまねぎ染めのカードケースなどを販売しました。好評で完売することができました。

基調講演

「WANTSに応える教育のあり方」

横浜国立大学助教授 渡部 匡隆先生

(アンケートより)

WANTSの発想を初めて知り、とても興味深い考え方だと思った。ジョブコーチのお話で周囲の方に理解してもらうことの大切さを感じた。



特別講演

「軽度発達障害の子どもを通常学級でどう指導すればよいか」

宇都宮大学教授 梅永 雄二先生

(アンケートより)

実際にどのようなことに困っているのか、どのようにしてほしかったのかなど具体的な当事者の話などもあり、興味をもって聞くことができた。

スウェーデンからようこそ！ 附属養護学校へ！

10月22日（土）、四国での演奏会を契機に、スウェーデンの知的障害児バイオリン演奏グループ「ラムセバンド」の演奏会が本校でも開催されました。130名の聴衆が優しいバイオリンの音色とハーモニーに魅了されたひとときでした。演奏会の後は歓迎の交流会で、本校名物の「附養獅子」を披露しました。縦横無尽に舞う獅子には興味津々でした。香川大学の坂井先生が演奏するバンジョーからはじけ出るメロディーと歌声は、万国共通の言葉です。会場の子もたちとラムセバンドのメンバーの笑顔が響き合った瞬間でした。ブラックシアターでは、「小さな世界」の曲に合わせて動く蛍光色の人形やロケットに、全員が魔法でもかけられたかのようにメルヘンの世界にひき込まれてしまいました。

3時間の滞在も、あっという間に過ぎてしまいました。出発したバスの窓から振り返る青い目の友達の「アリガト」の言葉に、ほのほのとした思いで手を振り続けました。

ラムセバンドは、1995年、スウェーデン・パーティル市の養護学校で始まった知的障害児のバイオリンバンドです。音楽の専門家や障害児教育の先生が、色音符やカラーテープなどユニークな工夫をして指導に当たっています。最初は楽器も満足に持てなかった生徒たちが、現在では演奏を楽しめるまでに成長しました。モットーは「不可能を可能に」です。



力作ぞろいの作品展

幼稚園では、「芸術の秋」ということで、10月からいろいろな作品づくりを行ってきた。楽しんで作ったもの、ちょっぴり苦勞して作ったものなどいろいろだが、どの作品からも子どもたちの思いや個性が感じられて、見ているとおもしろい。そこで、子どもたちが作った作品を赤組の部屋に展示し、作品展を行うことにした。

まずは、作品展をするにあたり、子どもたちからお家の人に向けての招待状を作成した。トトロの形に画用紙を切り取り、自分で「み・に・き・て・ね」と5つのひらがなを書くことにも挑戦。お手本の字を見ながら、一文字一文字心を込めて書いていく子どもたちの姿からは、自分で作ったいろいろな作品を早く見て欲しい気持ちが伝わってくるようだった。

11月9日。子どもたちのあいさつと歌のプレゼントから始まった作品展。歌は、子どもたちの希望で「ハッピーチルドレン」と「にんげんっていいな」の2曲を披露した。元気いっぱいの歌のプレゼントに、保護者の方々の顔も笑顔に満ちていた。続いて子どもたちによる作品紹介。ちょっぴりドキドキしながらも、作品（どんぐりの妖精ケーキ、どんぐり拾いの絵、まつぼっくりのけん玉、どんぐりマラカス、どんぐりごま、獅子頭、わたしのワンピース、アスレチックコースの計8作品）について、自分たちで紹介することが嬉しいようだ。その後、お家の人と一緒に、作品を見たり触ったりと、楽しい時間を過ごした。

ほんの30分程度の作品展ではあったが、歌ったり、作品紹介をしたりする子どもたちの姿や個性あふれるたくさんの作品から、子どもたちの成長が感じられるものになったと思う。



どんぐり拾いの絵を描いたよ

一人ひとりがきらり輝いた生活発表会

11月より、生活発表会に向けての活動が始まった。「練習に行くよ。集まって～」と声がかかると、遊ぶのをやめてすたこらさっさと帰ってくる子どもたち。みんなで演じたり演奏したりすることがきっと楽しいのだろう。練習中も、子どもたちなりに、大きくなった自分をお家の人に見てもらおうと頑張っている姿がいっぱいだった。友だちが頑張っている姿に刺激されて、自分も頑張ろうと努力したり、自分の場所や台詞が分からなくなった友だちにそっと教えてあげたり、クラスでの活動を通して一人ひとりの成長が感じられた。



そして迎えた生活発表会当日（12月3日）。たくさんのお客さんを前に、心地よい緊張を感じながら、合奏、歌、劇を頑張る子どもたち。いつも以上に立派にできたこともあれば、緊張のあまり失敗してしまったこともあったが、ここにくるまでの努力や助け合いこそが大切であり、これからの園生活において、子どもたちの育ちの支えになっていくことだろう。

脳科学、認知科学研究の知見を生かした授業づくり

今年になって、国際学力比較調査PISA2003やTIMSS2003の結果が相次いで公表され、子どもの「学力」は、全体としてはやはり低下傾向にあることが明らかになりました。とりわけ、「表現（記述）する」「解釈する」「思考」「評価する」「関連付け」など、思考に関する「学力」が今後の課題として挙げられています。

そこで、本校では昨年に引き続き「思考力」の育成を研究主題に掲げ、研究に取り組んでいくことにしました。近年、脳のメカニズムから教育の在り方を探っていこうとする気運が高まっていますが、本年度はこれらの知見を生かした授業づくりに取り組んでいます。

ここに、これらの授業の一端をご紹介します。

6年 国語 書き手になって読もう —「言葉の意味を追って」—

記憶には、ほんの数秒しか残らない「ワーキングメモリ」、数秒から数分程度覚えている「短期記憶」、長期にわたって覚えている「長期記憶」があります。学習したことが「長期記憶」として脳内に保存される方が望ましいことは、言うまでもありません。この「長期記憶」に関しては、以下のような脳科学研究の知見があります。

エピソード（経験）記憶にする＝精緻化させる（連合させる）

精緻化によって、ものごとを理解し連合させると、それだけ思い出しやすくなり、有用な記憶となってくれます。
(池谷裕二「脳の仕組みと科学的勉強法」：ライオン社)

情動を伴わせる

強い悲しみ、怒り、驚きといったものを経験した記憶はその感情と記憶が結び付いているがために思い出しやすいのです。
(川島隆太「天才の創り方」：講談社インターナショナル)

説明的文章の読みというと、受け身の学習になりがちです。与えられた文章を第三者として眺めるために情動も伴いにくく、学習内容を相互に関連付けることも難しいのです。

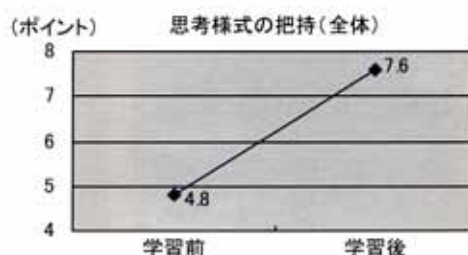
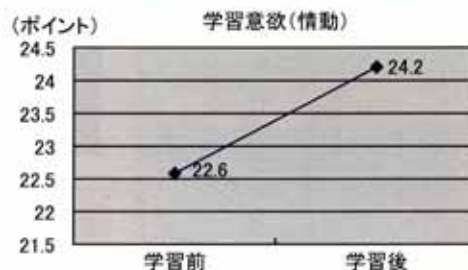
そこで、「もし、自分が筆者と同じことを主張するならば、どのような根拠をどのように構成するか。」という自分の考えをもたせた上で、それを基に教材文の根拠や構成を読み取り、最終的には教材文を評価、修正させていく学習を展開しました。いわば、書き手の立場に立った読みの学習です。

このような書き手の立場に立った読みの学習は、強い情動を伴うとともに、読者を想定するという状況に立つので、学んだことも精緻化（ネットワーク化）されやすくなるのではないかと考えました。

本実践を行った子どもたちは、「主張と根拠に関する思考の仕方（方法知識）」の把持率と学習意欲（情動）の得点が向上しました。

このことから、書き手の立場に立った読みの学習は、学んだ思考の仕方に関する知識を長期にわたって記憶しておく上で、価値ある学習方法であると言えそうです。

脳科学の知見を生かした授業研究は、まだ途についたばかりですが、視覚情報と聴覚情報による学習効果の違い、脳の活性化による発想の違いなどの研究にも取り組んでいます。



百花繚乱 咲き誇れ附中生!

11月20日(日)に、附属坂出小学校の校舎等をお借りして文化祭が行われました。

例年と異なり、耐震工事の関係のため、十分な準備や練習ができない状態でしたが、それぞれの生徒たちが一人一人の立場や役職で、休み時間や放課後などの限られた時間を活用して、精一杯取り組み、すばらしい文化祭をつくりあげました。

午前中は、総合学習「まんでがん」の発表で、午後は、「附中元気村」の開催でした。

本年度のテーマ「百花繚乱」のもと、各文化部の活動の成果や生徒・保護者・教師による歌や踊り、あるいは巨大壁画など、ステージや教室等での企画を通して、一人一人の個性を咲き誇らせることができました。



【総合学習発表会】

まんでがんⅠ (1年生)

- 1コース 私は未来のエネルギー社会を拓く提言者!
- 2コース めざせ グリーンコンシューマー!
- 3コース スポーツを科学する

まんでがんⅡ (2・3年生)

- Aコース 自己の内面探究
- Bコース 共生社会に生きる
- Cコース 心を身体で伝える
～自己の感情表現～
- Dコース メディアと私
- Eコース 自然と人間との関わり合い
- Fコース 私たちの暮らしと
自然との調和

【附中元気村】

体育館ステージ企画

音楽部	(吹奏楽部)
保護者合唱	(生徒&保護者)
Ma Cherie	(選択外国語)
前半	
半チャビ軍団	(2-1)
青春まっさかり★☆	(2-3)
陸軍団	(2-2)
おどろ!歌う!☆夢ノ巻☆	(3-1)
サンサンオガワグミ	(3-3)
the☆仲良し	(3-2)
後半	
漫才	(生徒)
スウィングガールズ	(教員)
後半	
サッカー&ソッチャン	(教員)

教室等展示企画

輝(キラリ)!!附中の顔!!	(1年団)
ユニセフ募金活動	(生徒会)
パキスタン大地震救援募金	(2-3)
小さい秋見つけた	(選択国語)
温泉集・山河販売	(文芸部)
まんが愛好会のまんが愛好会によるまんが愛好者のための冊子販売	(まんが愛好会)
世界に1つだけの花☆ミュージアム	(生け花部)
古今(ここん)	(美術部)
お茶会-茶・チャ・CHA-	(茶道部)
サイエンス 2005	(理科部)
cake-wood-お菓子の森-	(家庭科部)
jewelry-sea-宝石の海-	(家庭科部)
Let's take a picture	(生徒&教員)

大学の附属学校園であること

香川大学長 一井 眞比古



香川大学教育学部の附属学校園では、毎日2100名以上の生徒と児童、園児が学び、110名以上の先生が彼らを指導しています。附属中学校だけを見ても毎年240名前後の優秀な卒業生を県内の高等学校へ送り出しています。このことだけを見ても、地域社会における附属学校の役割はたいへん大きく、その実績は地域社会からも高く評価されています。また、教員免許の取得をめざす学生の教育実習の場としての機能も十分果たしており、数多くの有為な先生の養成に貢献していることはよく知られています。

国立大学法人香川大学の平成16年度業務実績に関する評価結果が公表されました。附属学校園に直接係わることとして、「附属学校について、大学、学部と一体となった取り組みを一層推進されることが求められる。」と記されていました。この指摘を私は次のように理解しています。第1は、附属学校園の研究の場としての活用であります。附属病院においても臨床研究の成果が求められると同じように、教育学部の先生が附属学校園を活用した研究成果を社会に発信することが求められています。第2は、坂出市と高松市の2地区にある附属学校園のより有効な活用であります。附属学校としての立場から考えると、それぞれが固有の特色ある機能を持ち、それらが連携し、新たな発展につなげていくことが期待されています。

香川大学教育学部及びその附属学校園における輝かしい歴史と地域社会への大きな実績は香川大学にとって大きな財産であり、資産です。われわれの貴重でかけがえのない資産をより発展させるためのご支援をお願いします。

学部長に就任して

附属学校園と教育学部の教育研究活動を協働してすすめるために

教育学部長 新見 治



この10月より加野前学部長の副学長就任の後を受けて、教育学部長に就いたばかりで慌ただしい日々を過ごしています。私が1980（昭和55）年に教育学部に赴任してから25年余りが過ぎましたが、この間の附属学校園とのお付き合いは浅くはありませんが、深いという状況にはないように思います。

前半の10数年間は研究大会があれば社会科地理分野の指導助言者として、また教育実習生の授業参観に附属学校を訪れるという状態でした。それでも県の社会科研究会の事務局を附属の先生方が担当されていることから、全国レベルや県レベルの研究会にお招きいただき親しくお話しする機会はしばしばありました。

ここ10年間くらいの附属学校園とのお付き合いの仕方は、以前とはかなり違ってきました。学校教育教員養成課程では、それまでの細分化された入試制度を改めて、教職意識の高い学生を入学させ1年間の共通教育を経て2年次から特定のコース・領域を定めて教員に求められる生徒や教科の指導力を養成する方式をとりました。1年次にはフレッシュマンセミナー「学校教育入門」を開設し、3つの附属学校園を訪問することにしました。高松または坂出の小学校、養護学校、そして中学校または幼稚園の計3校園を7クラスの担任各2人が分担して学生を引率しますが、私自身も初の養護学校デビューでした。こうして、教育実習以外の教育機会を附属学校園に持つようになり、大学の授業に附属学校園の先生方を講師としてお招きし実践的な指導をお願いしたり、学生が附属学校を訪れ学ぶような機会が多くなってきたように思います。

ここ2、3年、私たち学部の社会科教員は附属坂出中学校で放課後定期的で開催される公立学校の先生方の研究会に参加し発表と討議に加わる機会がありました。本年度からは、4つの附属小中学校と学部の社会科教員が2か月に1回くらい集まり、教育実習を中心に、教員養成教育や附属学校の教育について討議と情報交換をする場を設けています。多忙な附属学校の先生方にはご迷惑かも知れないけれど、学部・附属の教育活動を相互に理解する貴重な機会となっています。こうした取り組みを持続的に行うことで、附属学校園と教育学部の教育研究活動を協働して進めるための素地が形成されるものと思います。

先生！
ちょっとお話
聞かせて
くださーい！



高井 忠昌 園長先生
プロフィール

高松市内の幼、小、中、高等学校、徳島大学を経て、3年間の民間勤務の後、高松高専の教員を2年勤めるが、スタンフォード大学に留学。その後、徳島大学教員を経て、現在、香川大学で教鞭をとられております。

■ 先生のお仕事

Q. 香川大学教授、小学校校長、幼稚園園長の3つの肩書きをお持ちですが、大学でのご専門はどのような分野ですか？

A. 大学では中学校の技術教員の養成を担当しています。数年前までは、主として機械工学の授業（例えば、機械工学実験、機構学、内燃機関など）を」担当していました。今は、マルチメディアリテラシーなどの情報関連科目や木材加工などを担当しています。

Q. 大学では白衣ですか？

A. いいえ。木材加工の授業では作業服ですが、その他の授業ではクールビズ、ウォームビズのラフな格好をしています。

Q. 3つの仕事を曜日単位でこなしてらっしゃるのですか？

A. その通りです。月曜日は幼稚園、火曜日は大学、水曜日は小学校、木曜日と金曜日は大学というスケジュールになっています。

Q. 接する生徒の年齢の幅が大きいですが、頭の切り替えはどうされていますか？

A. 特別なことはしていません。多分坂出に行く列車の中で気持ちを切り替えているのだと思います。

■ 卒業アルバム

Q. 幼稚園の卒園アルバムに「みる、きく、いう」、小学校の卒業アルバムには一昨年は「真」、昨年は「健」、今年は「善」と、表紙に端正な字がありました。これは、先生の子供たちへのどんな思いが込められているのでしょうか？

A. アルバムの題字に込めた私の願いは、幼稚園卒業アルバムや、小学校卒業文集の中に説明しています。幼稚園児には「見る、聞く、話す」ことが特に重要だと思い、これらの言葉を選びました。また、小学校の題字は、その年に感じたことで言葉を選んでいきます。今までの題字は「真実、健康、善行」で、卒業してからも常に心に留めておいて欲しい言葉だと思い選びました。



Q. 先生の直筆ですか？

A. 直筆です。筆字はめったに書いたことが無いので、毎年正月に2、3日かけて練習します。そして、うまく書けたものをアルバムの題字にしています。

■ 子供のころは

Q. 子供のころはどんなお子さんでしたか？

A. 活動的だったと母から言われていました。家で本を静かに読むような性格ではなく、主に外で遊んでいました。

Q. 一番楽しかった思い出は？ A. 補助輪なしで、初めて自転車に乗ったとき

Q. 一番悲しかった思い出は？ A. いたずらをして、みかんの木に縛り付けられたとき

Q. 一番つらかった思い出は？ A. 構造改善事業のため農業ができず、食べるものが無かったとき

Q. 一番がんばった思い出は？ A. 広い田んぼで田植えをしたとき、仕事始めから終わりまで親と一緒に田植えをしたこと

Q. 将来の夢は？ A. 高校2年までは父の後を継いで農業。しかし担任の先生に勧められて進学しました。

■ 今の子供は

Q. ご自分と比べて附属坂出学園の子供たちはどうですか？ 幸せなのはどっちですか？

A. どちらとも言えません。私が子供のころと今を比べると、物質的には比較にならないほど豊かになっています。今、毎日の食事に困るということはありません。しかし、放課後塾やピアノなどで自由な時間が無い今の子供たちの状況を見ると、かわいそうな気がします。私の子供のころは、家の仕事の手伝いもありましたが、自由になる時間が多かったと思います。

園長先生ありがとうございました。

- Q. 朝ごはんは、ごはん、パン？
A. ごはんが好きですが、たまにパンになります。
- Q. 犬と猫、どちらが好き？
A. 犬のほうが好きです。
- Q. ペットはいますか？
A. いません。
- Q. 髪の毛は天然パーマですか？
A. その通りです。
- Q. どんなときに緊張しますか？
A. 人前に立つときはいつでも緊張します。
- Q. ほっとするのはいつですか？
A. 金曜日の午後(土日に自分の時間が持てるので)。
- Q. 好きな料理は何ですか？
A. カレーライス+自家製らっきょ。
- Q. 好きなテレビ番組は何ですか？
A. トランスフォーマー。
- Q. 好きな本、雑誌は何ですか？
A. SF作品、気分転換に漫画も少々

子供たち
からの
質問コーナー

幼稚園より ウエンディの会

今年は子供たちの幼稚園ライフを楽しく、豊かにするグッズを作製しました。10月の4日間でのべ人数約100人が参加しました。おままごとの材料、お店のメニュー、お弁当のパーツなどをフェルトなどからすべて手縫いで製作しました。現在、使われているおままごとの道具も何年前のウエンディの会で作った物です。年月を経て、傷み、紛失が目立ってきました。今年の会でこれらを一新しました。昔ながらのケーキ、寿司に加え、いまだきのピザ、ハンバーガー、アイスクリームも作りました。完成した日に幼稚園玄関でお披露目しました。圧巻でした。おかあさんたちは、達成感で大満足。子供たちもおままごと遊びに熱が入ります。



小学校より 初めての保護者メンテナンス



一学期の不審者避難訓練に続き、9月2日の地震避難訓練にも保護者代表が立ち会いました。その際、掃除道具入れなどの固定が不十分との意見があり、保護者で改善する事になりました。10月29日、今回は常任委員さんを中心に集まってもらい、先の固定作業に加え、北館の2F3Fの壁のペンキ塗りをしていただきました。今後も安全できれいな学校を維持するために定期的にこういった機会を設けたいと考えています。

中学校より

平成18年3月をもって、お世話になった附属坂学園のPTA会員を終えることになりました。

先生方をはじめPTAの皆様には、たいへんお世話になりました。中でも、PTAソフトボールの練習や大会での保護者の皆様との交流はたいへん意義深いものになりました。ありがとうございました。

さて、私の家では、中学校からの通信や案内を入れておくかごがあります。このかごがすぐいっぱいになるほど学校からのお便りは多いのです。さまざまな学校行事を企画し、保護者の参加を呼びかけていただき、本当に感謝しています。この間私が学校に足を運んだのは、平成16年度の文化祭と教育講演会（大阪淀川工業高校教諭）の2回でしたが、子どもたちの生き生きとした活動を見ることができ、また、講演会では、子どもが学校に行くというこの意味を改めて考えさせられました。重ねて感謝いたします。

この機会にお願いしたいことは、大がかりな準備や練習を通して見せることを前提とした学校行事とは別に、日常的な学校の様子を見せていただく機会をもっと設けてほしいということです。ふつうに授業が行われている日だと、先生も生徒も、保護者も、平静な状態なので、日々の過ごし方について考えを深めていくことができるのではないのでしょうか。

(3年保護者 冨家 淳夫)

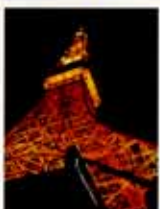
PTAスポーツ

11月12日（坂出市立体育館）
香川県公立幼稚園PTAソフトボール大会
男性Aチーム/兄貴の部3位



11月20日
（トクヤマグラウンド）
坂出市PTAソフトボール大会
小学校Aチーム優勝

養護学校より 我が家の宝物 - 修学旅行の思い出 -



小学部の京都1泊旅行、中学部では九州への2泊3日の旅、そして今年10月には高等部2年で東京へ2泊3日の修学旅行に行ってきました。すべての思い出は、息子の記憶とビデオ、写真に残されています。いつも私は、息子から旅で感じたことを聞くのを楽しみにして

いて、たくさんの問いかけをします。「友だちと乗るマリンライナーはどうだった?」「東京ベイヒルトンホテルは素敵だった?」など問いかけても、返ってくる言葉は「うん、よかった」「おいしかった」の単語だけ…ぜひたくは言えませんが、もっと話が聞きたい、もっと中身のある感想が聞きたい…と思ったりします。でも、先生が撮ってくれたビデオと一緒に見ると、言葉少なに返ってくる返事にもたくさんの言葉が詰まっているんだと感じます。「ラーメンが美味しかったのは、友だちと夜の街を歩いていき、わいわい言いながら食べたから美味しかったんだね」「ホテルがよかったのは、部屋から海も見え、広い部屋だったんだね」と…。

最近の彼は反抗的な態度をよく見せます。そんなときも、自由に言葉が出たらどんなに楽だろうと思います。少ない言葉（気持ちもそうですが）のなかに含まれたたくさんの言葉（感情）をくみとってあげられる、また一緒に笑ったり、泣いたりする時間を大切にしていって家族でいたいです。

学校への通い慣れた道を歩いていくのもあと1年あまりになりました。3度の修学旅行をはじめ、数々の思い出ビデオを折々に振り返り、今も楽しんでおります。我が家の宝物です。

(附属養護学校高等部保護者 大西 陽子)

親和会

幼稚園より ウエンディの会

今年は子供たちの幼稚園ライフを楽しく、豊かにするグッズを作製しました。10月の4日間でのべ人数約100人が参加しました。おままごとの材料、お店のメニュー、お弁当のパーツなどをフェルトなどからすべて手縫いで製作しました。現在、使われているおままごとの道具も何年前のウエンディの会で作った物です。年月を経て、傷み、紛失が目立ってきました。今年の会でこれらを一新しました。昔ながらのケーキ、寿司に加え、いまどきのピザ、ハンバーガー、アイスクリームも作りました。完成した日に幼稚園玄関でお披露目しました。圧巻でした。おかあさんたちは、達成感で大満足。子供たちもおままごと遊びに熱が入ります。



小学校より 初めての保護者メンテナンス



一学期の不審者避難訓練に続き、9月2日の地震避難訓練にも保護者代表が立ち会いました。その際、掃除道具入れなどの固定が不十分との意見があり、保護者で改善する事になりました。10月29日、今回は常任委員さんを中心に集まってもらい、先の固定作業に加え、北館の2F3Fの壁のペンキ塗りをしていただきました。今後も安全できれいな学校を維持するために定期的にこういった機会を設けたいと考えています。

中学校より

平成18年3月をもって、お世話になった附属坂学園のPTA会員を終えることになりました。

先生方をはじめPTAの皆様には、たいへんお世話になりました。中でも、PTAソフトボールの練習や大会での保護者の皆様との交流はたいへん意義深いものになりました。ありがとうございました。

さて、私の家では、中学校からの通信や案内を入れておくかがあります。このかごがすぐいっぱいになるほど学校からのお便りは多いのです。さまざまな学校行事を企画し、保護者の参加を呼びかけていただき、本当に感謝しています。この間私が学校に足を運んだのは、平成16年度の文化祭と教育講演会（大阪淀川工業高校教諭）の2回でしたが、子どもたちの生き生きとした活動を見ることができ、また、講演会では、子どもが学校に行くということの意味を改めて考えさせられました。重ねて感謝いたします。

この機会にお願いしたいことは、大がかりな準備や練習を通して見せることを前提とした学校行事とは別に、日常的な学校の様子を見せていただく機会をもっと設けてほしいということです。ふつうに授業が行われている日だと、先生も生徒も、保護者も、平静な状態なので、日々の過ごし方について考えを深めていくことができるのではないのでしょうか。

(3年保護者 冨家 淳夫)

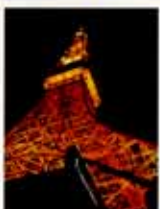
PTAスポーツ

11月12日（坂出市立体育館）
香川県公立幼稚園PTAソフトボール大会
男性Aチーム/兄貴の部3位



11月20日
（トクヤマグラウンド）
坂出市PTAソフトボール大会
小学校Aチーム優勝

養護学校より 我が家の宝物 - 修学旅行の思い出 -



小学部の京都1泊旅行、中学部では九州への2泊3日の旅、そして今年10月には高等部2年で東京へ2泊3日の修学旅行に行ってきました。すべての思い出は、息子の記憶とビデオ、写真に残されています。いつも私は、息子から旅で感じたことを聞くのを楽しみにして

いて、たくさんの問いかけをします。「友だちと乗るマリンライナーはどうだった?」「東京ベイヒルトンホテルは素敵だった?」など問いかけても、返ってくる言葉は「うん、よかった」「おいしかった」の単語だけ…ぜひたくは言えませんが、もっと話が聞きたい、もっと中身のある感想が聞きたい…と思ったりします。でも、先生が撮ってくれたビデオと一緒に見ると、言葉少なに返ってくる返事にもたくさんの言葉が詰まっているんだと感じます。「ラーメンが美味しかったのは、友だちと夜の街を歩いていき、わいわい言いながら食べたから美味しかったんだね」「ホテルがよかったのは、部屋から海も見え、広い部屋だったんだね」と…。

最近の彼は反抗的な態度をよく見せます。そんなときも、自由に言葉が出たらどんなに楽だろうと思います。少ない言葉（気持ちもそうですが）のなかに含まれたたくさんの言葉（感情）をくみとってあげられる、また一緒に笑ったり、泣いたりする時間を大切にしていって家族でいたいです。

学校への通い慣れた道を歩いていくのもあと1年あまりになりました。3度の修学旅行をはじめ、数々の思い出ビデオを折々に振り返り、今も楽しんでおります。我が家の宝物です。

(附属養護学校高等部保護者 大西 陽子)

親和会